

第三回超領域社会工学研究会 ZOOM 研究会報告書

2022年6月4日

今回も慶応義塾大学慶友マルチメディア研究会との合同の ZOOM 研究会を開催しました。

1. 講義（慶応義塾大学商学部佐々木美帆准教授）

テーマ「バイリンガルになる：言語発達と世界の見え方」

以下に沿って進める。

- (1). バイリンガリズムとは何か
- (2). バイリンガルの言語発達と環境
- (3). バイリンガルの言語使用と認知モデル
- (4). バイリンガル認知の研究紹介
- (5). バイリンガルの脳
- (6). 日本におけるバイリンガリズム・バイリンガル教育
- (7). バイリンガル研究の今・ま) とめ

Q&A

- ・事前アンケートの意見の大半は母語の修得が大事、というもので、結論も母語習得をまず優先することである。

(1) バイリンガリズムとは何か。

- ・グロジャンの定義「二言語またはそれ以上の言語や方言を日常生活の中で定期的を使用すること」(グロジャン, 2018)
- ・バイリンガルの2言語の到達度による分類 (カミンズ)

2言語の到達度と知的発達への影響

均衡 (balanced) バイリンガル：2言語とも年齢相応のレベル	+
優勢/偏重 (dominant) バイリンガル：1言語のみ年齢相応のレベル	±0
モノリンガル (母語)	±0
セミリンガル (Semilingual/Double-limited bilingual) :	
2言語とも年齢相応に達していない	-

(中島, 2016)

- ・バイリンガルのさまざまな特徴と環境 (Baker, 2011)

開始年齢：同時発達バイリンガル：La+Lb

継続発達バイリンガル：(およそ3歳～5歳以降にL2開始) L1+L2

2言語のバランス：多くの場合、片方の言語が優位 (dominant bilingual)

文化：バイカルチュラル・モノカルチュラル、言語環境での滞在年数

(2) バイリンガルの言語発達と環境

言語発達：モノリンガル児との比較

- ・習得の過程・時期に差は無い

喃語（6か月）→ 初語・1語文（8~12か月）→ 2語文（1歳半）→ 文

言語習得の臨界期（6歳~12歳）これまでに母語の基礎ができる（音韻、文法）

- ・同時バイリンガル（La+Lb）・早期継続バイリンガル（L1+L2）は語彙数が少ない可能性 → but, 2言語を合わせた語彙の総数は多い。
- ・認知的優位性：言語の切り替え・抑制
- ・心の理論：他者の視点や心の状態の理解力 「暑いね」→ 「エアコン下げようか」
- ・バイリンガル育成の考え方

否定的：20世紀前半は否定論が主流。言語発達・語彙量の遅れ。現在でも否定的な考えは存在（親・祖父母・小児科医）

肯定的：知的発達を促進（Peal & Lambert, 1962）・メタ言語意識の獲得が早い。柔軟性のある思考・寛容的、異文化理解。幅広い視野・人間関係・進路選択。

有利となるかは、年齢・言語習得開始年齢・習得度・言語使用頻度・2言語の組み合わせの影響も大きい。

絵本の読み聞かせとバイリンガリズム

一般：親子のやりとり、家庭での読み書きの原点、読書習慣の確立

バイリンガル：もう一つの言語モードを与える、語彙の拡充、違う文化や習慣を学ぶ
→ ナーサリーライム（童謡）も重要な役割を持つ。

(3) バイリンガルの言語使用と認知モデル

認知プロセス=人間が見聞したものを理解する体系や過程

①言語モードと Code-switching: バイリンガル言語モードは Code-switching が起こりやすい『言語モード・モデル』（Grosjean, 1998）。

②語彙概念と構造：2言語の語彙は個別に存在しているのではなく相互連結している『階層モデル』（Kroll & Stewart, 1994）。

③2言語の関係：バイリンガル L2 は 2つの言語の特徴を統合させた言語認識システム（言語知識）を作り上げる『マルチコンピタンス・モデル』（Cook, 2003;2012）。

(4) バイリンガル認知の研究紹介

- ・複数の言語知識がバイリンガルの認知や志向に影響する。
- ・英語話者は「形」をもとに物体を認識し、日本語話者は「材質」をもとに物体を認識する傾向がある（Imai & Gentner, 1997）。

(5) バイリンガルの脳

- ・言語によって脳の違う部分を使っているわけではない。
- ・モノリンガルとバイリンガルの差異：
 - ①母語・優勢言語では脳は活発に反応しない（自動化）。
 - ②脳側性の有無：早期継続バイリンガル（5歳以下でL2開始）の場合、L2で右脳と左脳の両方が活性化する。L2話者では両半球の脳活動がより多く見られる。
- ・ACC（前帯状皮質）：バイリンガルは前帯状皮質ACCの灰白質が多い。＝よく使っていて発達している。言語抑制の中核。

・バイリンガルは認知症の発症を抑制する（Bialystok et al., 2004,2007）

→ バイリンガルの日常的・継続的な2言語併用の生活により、脳機能が保たれ、認知症の発症が約4年遅くなった。

モノリンガル：発症年齢 71.4歳

バイリンガル：発症年齢 75.5歳

- ・バイリンガルの脳側性（左右の脳の血流速度の差）：言語タスク中の脳側性を分析
 - ①バイリンガルはL1とL2で異なる脳側性を見せるか → ドイツ語・フランス語・日本語をL1とし、英語をL2とするバイリンガルの脳側性インデックス（左右の血流速度の差）にはL1とL2で高い相関性があり、多くは左脳優位。
 - ②言語習得開始時期によって脳側性に違いはあるのか → L2の言語習得開始年齢（6歳未満・以上）での差はなかった。

(6) 日本におけるバイリンガリズム・バイリンガル教育

Bilingualism:個人レベルの2言語使用

Diglossia:社会レベルの2言語使用

- ・日本の **Bilingualism**：アイヌ語や琉球語を使う人々、国際結婚・移民・海外赴任の子ども、企業内・学校内での英語使用
- ・バイリテラシー獲得の難しさ：4技能のうち1技能のレベルが高くても他の技能のレベルが高いとは限らない（聴解型バイリンガル・会話型バイリンガル・読み書き型バイリンガル）

日本語のバイリンガル：**Bi-scriptal**（漢字かな/アルファベット）2つの文字体系

ヨーロッパ言語のバイリンガル：**Mono-scriptal**

- ・日本のバイリンガル教育の現状
主要言語（英語）のバイリンガルの育成
 - ①幼児英語教育
 - ②英語塾・アフタースクール
 - ③インターナショナルスクール

④イマージョン教育（英語と日本語、英語と学科の両立）

⑤英語ベースで学位をとれる大学

→ 英語の継続は家庭環境と本人次第

少数言語のバイリンガル・マルチリンガルの育成

①日本における少数民族の継承後教育（アイヌ語・琉球語・朝鮮語）

②移民の継承語教育（日系ブラジル移民、帰国子女）

③日本手話

④方言

→ 地域・コミュニティ・家庭での教育とアイデンティティ確立

・これからの日本のバイリンガル教育で必要なこと

①多様な言語と文化の大切さを共有し認め合う。

②教育現場での日本語と英語の重要性の認識

→ 英語が使える人材育成のためには、英語を使用する機会を増やすとともに、母語としての日本語を安定して獲得することが必要。

（7）バイリンガル研究の今・まとめ

・日本のバイリンガル教育は今だ発展途上で、日本語文献も少ない。

・バイリンガルの認知はモノリンガルの認知とは異なる。

・複数言語を習得することで、母語1言語のみとは違う世界を見る。脳活動も違う。

・その違いの度合いは、2言語（背景にある文化環境含む）にどれだけ浸って使っているかに影響される。また、時・環境によって流動的に変化する。

Q&A

Q1 イギリスのバイリンガルの状況は。

A1 イギリスでは英語しか話さない。インド系を別にして白人は外国語に興味がない。

Q2 イギリスとアメリカの発音はどちらが良いのか。

A2 イギリスは子音をしっかり発音し、アメリカは **R** をしっかり発音する。日本はアメリカ英語がベースとなっており、アメリカ英語を手に入れやすい。社会にはいろんな発音する人々がいる。

Q3 何歳からでもバイリンガルになる可能性があるというのが本当なのか。

A 3 **balanced bilingual** にはまだ二人しか会ったことがなく、多くは **dominant bilingual** で年齢相応のレベルにおいて脳をコントロールしていると考えられる。

Q41 息子家族がシカゴに駐在して、今後ヨーロッパ等々含めて海外勤務する予定。3歳児はどのように取り組めばよいか。

A4 3歳児に対して日本語を継承語としてどのくらい保持したいのか、両親の意向もあると思う（日本の大学に戻る予定なのかどうか）。日本語の補習校、日本人のコミュニティ、

日本語のインプットに多様性を持たせる。日本語の環境（動画・絵本）を作る。
→ N氏より、うちの息子家族もアトランタにいる。家の中では日本語を使っている。

Q5「マルチコンピタンス・モデル」というが、バイリンガルは思考が単純化していくのか。
今、1歳1か月の子どもがいるがどうすればよいか。

A5 英語体系・日本語体系が広がる、柔軟になる。日本語の土台を作り、英語の種をまく。
LとRの発音は2歳くらいまでにインプットしておく。将来話してほしい言語を聞かせておく。インプットは脳に響く。使わないと使える英語にならない。日本語・英語の絵本の読み聞かせ、イギリスの童謡等々母親と一緒に遊ぶのがよい。

今回は、ZOOMによる合同研究会を9月17日を予定しています。

<参考文献>

フランソワ・グロジャン著/西山教行監訳/石丸久美子・大山万容・杉山香織訳『バイリンガルの世界へようこそ：複数の言語を話ということ』（勁草書房、2018年）

中島和子『完全改訂版バイリンガル教育の方法：12歳までに親と教師ができること』（アルク、2016年）

（文責：須賀淳子）

（超領域社会工学研究会部会長 増子保志）